

別紙様式 3

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和7年5月12日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校 総合学科棟3階 会議室
開催にあたり、委員による「演劇ワークショップ」参観を実施した。
- 4 参加者
会長 土本 泰 至学館大学職員
委員 伊藤 公一 美濃文山窯(欠席)
加藤 直美 土岐市立西部こども園 園長
加藤 宏峰 土岐市立西陵中学校 校長
木股 秀樹 土岐市市民活動課長
長瀬 久美子 土岐市立下石小学校 校長
成瀬 美智子 本校PTA副会長

※会議の開催及び協議については、欠席者から会長に委任する旨を得た。

学校側	木澤 朗	校長
	清水 香織	教頭
	塩崎 勉	事務長
	金子 浩隆	教務部長
	坂崎 陽祐	生徒支援部長
	大宮 学	進路支援部長
	白川 功貴	活性化推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営の基本方針等について

- ・「総合学科」の特色説明
- ・校訓、校章の紹介
- ・教育目標、スクールミッション、スクールポリシー、基本方針、運営の重点の説明

(2) 学校概要説明について

- ・職員構成、運営機構
- ・生徒構成
- ・教育課程・日課
- ・年間行事計画
- ・分掌説明(生徒支援部、進路支援部、活性化推進部)

別紙様式 3

- 意見1：総合学科が6系列から4系列となった今でも、工夫し、研究してカリキュラムが組まれている。入学志願者が定員を割り込むことに対する手立てを考える必要はある。
- 意見2：本校のカリキュラムは中学時代より選択肢が多く魅力的である。人それぞれの強みが生かせ、期待感が持てるカリキュラムである。また、生徒によって進路選択も様々なので、特化した学びというより、自分に適している分野かどうかを仲間と共に試せる学びという点でもよい。
- 意見3：自分の好きな学びで成長できる高校である。カリキュラムも細分化されており、様々な学びができる工夫がされている。
- 意見4：本校の「総合学科」は様々な学びができるため、わが子も楽しく学んでいる。自宅でも勉強する姿が身近に見られてありがたい。
- 意見5：スクールポリシーの中にある「地域社会」「協働」という言葉から、生徒が将来社会に出ていくことを念頭に教育活動をしている印象を持った。カリキュラムも一人ひとりが望む進路を考えて作られている。
- 意見6：スクールミッションで「人材」ではなく「人」という言葉にこだわった点は評価できる。生徒を一人の人間として尊重する本校の姿勢がうかがえる。

(4) 演劇ワークショップ見学及びその他の意見について

- 意見1：1年次のまだ緊張している早い時期に、演劇ワークショップに取り組むことで、安心感が生まれ、勉強する意欲にもつながっている。
- 意見2：AIの活用が進む現代ではあるが、演劇ワークショップで人との関わりを学ぶのはよいことだ。隣の人がどのような表情をしているかを気に掛けるなど、コミュニケーションを楽しみながら学んでいる。
- 意見3：昨今「主体性」という言葉が流行語のように使われている。「イマジネーション」「コミュニケーション」がないと主体性は発揮できないが、演劇ワークショップで学んでいける。
- 意見4：演劇ワークショップのゲームに参加しない生徒が一人もいないということに驚いた。大人でもやった方がよいと思うほどのよい取組みだ。
- 意見5：クラスの一体感が高まっていくことが見ていて伝わった。
- 意見6：生徒が一生懸命楽しんでいるのが魅力的だった。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会は、6人の委員（新任4人）で開催した。会長選出に続いて演劇ワークショップを見学した後に、会長を議長として議事を進行した。今年度の学校運営の基本方針等については、過半数の委員より承認が得られた。多くの視点から意見を得たことを踏まえ、今後の学校運営に生かしたい。

9月の第2回学校運営協議会では、新たに生じた課題とその対応及び前期の総括等について協議する予定である。